

顎変形症治療実習（西久保 周一）

the course for Jaw deformity treatment（Shuichi Nishikubo）

キーワード

- ①顎変形症
- ②睡眠障害
- ③成長発育
- ④診断
- ⑤治療

関連する学位授与方針  
DP(ディプロマポリシー)

①,②,③,④,⑤

関連する教育実施方針  
CP(カリキュラムポリシー)

①,②,③,④,⑤,⑥

授業概要

顎変形症は呼吸生理と密接な関係がある。骨格性の異常をただ単に補正するのではなく、呼吸生理を加味した治療計画、および手術を行うことは、顎変形症治療の根本を成す重要なことである。アジア人の閉塞性睡眠時無呼吸症の原因の多くは顎変形症とされている。本コースでは、顎変形症の特徴と呼吸生理を深く理解し、その治療の本質を学ぶ事を目的として開講する。

授業科目の学修目標

実際の顎変形症症例を通して、呼吸整理を加味した顎変形症治療診断の手順およびそのポイントが説明できる事を目的とする。

授業計画

- ①手術前後の2次元画像診断 10コマ
  - ②手術前後の3次元画像診断 20コマ
  - ③モデルサージェリー 30コマ
- 実習担当教員 西久保周一、小枝聡子、石井 滋

教科書および参考書

口腔外科学 医歯薬出版

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

教科書・参考図書の内容を十分理解すること

大学院生が達成すべき行動目標

- ①手術前2次元画像診断において、術後の咽頭気道の変化を予測することができる。
- ②2および3次元画像診断における利点、欠点を理解し、応用できる。
- ③手術前モデルサージェリーを行い、手術用スプリントの作成ができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
0%	0%	0%	0%	0%	20%	80%	0%

評価の要点

- ・口頭試問:実習単位毎に理解度を判定する。10%×2回=20%
- ・実技:過去の症例を基に3次元診断を実践する。20%×4回=80%

理想的な達成レベルの目安

総合評価で80%以上の達成を求める。